

# 社

会保障・税一体改革の議論の行方もさることながら、選挙制度改革も重要だ。最高裁が違憲状態とした衆院小選挙区制の「1票の格差」をめぐる、小選挙区定数の「0増5減」と比例代表定数の80議席削減などが提起されている。

定数格差は早急に是正しなければならぬ。ただ、この議論に絡み、中小政党からは小選挙区比例代表連用制を求める声がある。さらには中選挙区制の復活という主張もちらほら聞こえてくる。

そもそも小選挙区制への批判は、死票が多くなりがちで少数意見が反映されにくいことからくる。しかし、民主主義政治では多くの意見を聴くことも大事だが、政策や法律を

決定することが究極的に重要なことである。少数意見を反映することは十分に熱心だと、国会での各党の議席で弱体な政権しかできず政治的意

思決定がうまくできない。比例代表制の最大の欠点は、決定性（勝者を必ず選ぶ）の保証がないことである。絶対的な勝者がいないことよって、単独政党による政権ではなく複数の政党による連立政権となる。政権維持のために政党が妥協をし、支持者が望まないような政策の組み合わせが実現するおそれがある。現に比例代表制を導入している国では、しばしば連立政権になっている。衆参両院で導入されているわが国もその例に漏れない。ひるがえって、世界中のさまざま

な選挙制度を見ると、できるだけ多様な意見を聴きつつ最後に物事を決める仕組みとして示唆に富む。5月6日の仏大統領選挙は、決選投票制である。つまり1人の勝者を決める投票で、1度目の投票で過半数を得る候補者がいなければ2度目の投票が行われる。フランス国民議会選挙も決選投票制だ。これにより、小選挙区制の欠点を防いでいる。

オリンピックの開催地を決める投票は単記委譲投票と呼ばれる。この方式は、候補の中から最も望む候補に投票し、得票が最も少ない候補を排除する。これを繰り返して最後に残った候補を勝者として選出する。要するに、候補者に対する有権者の好み（選好）を投票でどううまく

くみ取ることがカギである。一度だけの投票で最も望む候補者にしか投票できないと、有権者の選好に関する情報がほとんどくみ取れない。その点からすると、相対的多数決投票は民意の反映として芳しくないことが公共選挙論の研究で知られている。

その研究によると、望ましい選挙制度は是認投票制だという。是認投票制とは、各有権者が候補者の中から選出されてもよい（是認する）と考える候補者を好きなだけ選び投票し、最多得票した候補者を選出する制度である。多くの人が嫌われる候補者が選ばれにくい。

この方式では是認する候補者すべてに投票できるので、有権者の選好情報がより多くくみ取れる。何人の候補者を是認するか自由に選べることを利用して、敵対する候補者を落選させようと自分の選好を偽って投票する懸念はある。それでもそうした作爲的な投票は結局うまくいかないため、有権者が正直に選好を表明する誘因を持つとされる。

加えて、投票率が低い若年世代に配慮した世代別選挙区制の提案もある。選挙改革は少数意見の反映ではなく、いかにうまく有権者の選好情報をくみ取り、勝者を選ぶ仕組みにするかを重視すべきである。

## 選挙制度改革は何を目指すべきか

【今週の眼】

土居丈朗

慶応義塾大学経済学部教授

# 経済を 見る眼



どい・たけろう ●1993年大阪大経済学部卒。99年東京大で経済学博士号取得。慶応大専任講師を経て2009年から現職。審議会委員等の役職を歴任。著書は『地方債改革の経済学』『アリとキリギリスの日本経済入門』等多数。専門分野は財政学、公共経済学。

撮影：尾形文繁